

事業コード	H20-建-継-29		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地すべり対策事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	砂防		班 名	傾斜地保全・砂防班 (tel) 018-860-2531
路線名等	谷地		担当課長名	神居 勝康
箇所名	雄勝郡東成瀬村谷地		担当者名	木内 昭
総合計画との関連	政策コード	C	政 策 名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施 策 名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	05	施策目標(指標)名	土砂災害危険箇所整備率

1. 事業の概要

事業期間	S46 ~ H23 (41年)	総事業費	50.0億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	集水井工30基, 集水ボーリング24,645m, 排水トンネル848m, 押盛土工454,000m ³					
事業の立案に至る背景	<p>当地区は、東成瀬村谷地地区に位置し、東西延長1300m、南北950mに及ぶ大規模な地すべりで、古くから地すべりによる被害を受けてきており、再度地すべりが発生した場合、一級河川成瀬川を埋塞させ下流の集落、耕地及び国道342号に甚大な被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>昭和46年の着手以来対策工事を行い、沈静化傾向にはあるが、今もなお融雪期には最大で5~10cmの変動が発生している。</p> <p>このようなことから、地すべり防止施設整備をもって住民の生命・財産を保全するものである。</p>					
事業目的	<p>【主たる目的】 地すべりの原因となる地下水を集水井工・集水ボーリング等により排除すると共に、排土工、押さえ盛土工を施工して地すべり災害の拡大を防止し、民生の安定を図る。</p> <p>【保全対象】 人家 241戸, 耕地 126.5ha, 橋梁 22橋, 一級河川成瀬川, 一般国道342号 11,678m 村道 22,201m, 農道 12,002m, 東成瀬村克雪センターほか9公益施設</p>					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	5,000,000	5,000,000	0		
	経費内訳	工事費	2,985,000	2,985,000	0	
		用補費	40,000	40,000	0	
		その他	1,975,000	1,975,000	0	
	財源内訳	国庫補助	2,500,000	2,500,000	0	
		県 債	2,250,000	2,250,000	0	
		その他	0	0	0	
一般財源	250,000	250,000	0			
事業内容	対策工事 調査観測 計画・設計 用地補償	対策工事 調査観測 計画・設計 用地補償				
事業の進捗状況	平成19年度末時点で全体計画の80%が完成しており、引き続き排土工及び押さえ盛土工を施工する。					
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	「あきた21総合計画」第3期実施計画において、「災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実」の施策として位置づけられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	当地区は地すべり区域が広範囲なことに加え、変状の発生が活発なため、その対策に長期間を要している。					
事業効率把握の手法及び効果	指 標 名	土砂災害危険箇所整備率				
	指 標 式	土砂災害危険箇所整備率=概成箇所数/危険箇所数				
	指 標 の 種 類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無		
	目 標 値 a	23.4 %	データ等の出典	県 河川砂防課		
	実 績 値 b	22.7 %				
	達成率 b/a	97.0 %	把握の時期	平成20年 3 月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	県内最大の地すべり地帯であり、古くから地すべりによる被害が発生し、現在も融雪期に大きな地盤の変動が発生しており、地域住民は地すべりの安定化を望んでいる。	20 点
緊 急 性	着手以来、地すべり防止施設の整備が進められているが、地すべりが活動した場合、極めて甚大な被害を及ぼす恐れがあるため、早急な地すべり対策の実施により安定化を図る必要がある。	10 点
有 効 性	[手段の妥当性] (代替案立案等の可能性) 地すべり対策事業は、地すべり防止法第 7 条により都道府県知事が行うものとして位置づけられている。 [整備効果] 対策により、保全対象である多数の人家や公共施設の保全を図ることができ、対策の有効性は高い。	10 点
効 率 性	[費用対効果] 事業の費用対効果は 1 . 5 4 であり、効率性は高い。 ・総費用の現在価値 53.34 億円 ・総便益の現在価値 82.06 億円	20 点
熟 度	[地域の状況] 地元住民及び東成瀬村との合意形成が図られており、順調に事業が推進している。 [事業推進の見込み] 計画とおり、平成 2 3 年度の完成を予定している。	25 点
判 定	ランク () 各観点において評価点が高く、住民の生命・財産を保全するうえでも有利な事業箇所であり、実施すべきと考える。	85 点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 砂防課所管事業

事業コード(H20-建-継-29)
箇所名 (雄勝郡東成瀬村谷地)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	県民のニーズ	変化なしまたは増加している	20	20	
		若干低下している	10		
		非常に低下している	0		
	計		20		
緊急性	危険度	変化なしまたは増大している	10	10	崩壊進行、地下水位上昇等 地下水位低下、残斜面安定
	斜面、溪流等の危険度	若干低下している	5		
		非常に低下している	0		
	計		10		
有効性	災害発生時の影響	変化なしまたは増加している	10	10	
	保全対象数の変化	若干減少している(80%以上)	5		
		非常に減少している(80%未満)	0		
	計		10		
効率性	事業の効率性・進捗状況				
	費用便益分析(B/C)	1.0以上	10	10	
		1.0未満	0		
	対策工法、工事に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	10	10	
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	5		
		課題はあるが、解決する見込みである	3		
		課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0		
コスト縮減計画	具体的なコスト縮減計画がある	10	0	0	
	具体的な計画はないが、検討中である	5			
	コスト縮減計画無し	0			
計		30	20		
熟度	地元の協力状況				
	事業の進捗状況	計画どおり進捗している(100%以上)	10	5	
		概ね計画どおり進捗している(70%以上100%未満)	5		
		計画より遅れている(70%未満)	0		
	地元住民・関係自治体等に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	20	20	用地、補償物件等
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	10		
		課題はあるが、解決する見込みである	5		
課題解決の見込みなし又は事業が停滞している		0			
計		30	25		
合計			100	85	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		